

「事前学習Ⅱ」 報告

2018/07/14



スポーツボランティアプログラム 事前学習Ⅱ

7月14日（土）、本センター独自のボランティア活動の1つである「スポーツボランティアプログラム」の事前学習Ⅱを南大沢キャンパス11号館201教室にて、実施いたしました。

今年度で3年目となるこの活動には、3年目の学生（リーダー）が5名、2年目の学生（サポーター）が5名、1年目の学生が19名参加しています。プログラムの参加学生は、この事前学習に参加し、これからの活動に向けて必要となる知識や技能を学んでいきます。

講師は、本学の健康福祉学部理学療法学科の助教である信太奈美先生、公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会の市川大貴さん、社会福祉法人 日野市社会福祉協議会の宮崎雅也さんの3名にご担当いただきました。

・昨年の活動について

まず初めに、昨年度も活動に参加している2年目の学生（サポーター）から、昨年度の活動についての説明がありました。各イベントごとに学生がどのような役割で活動したのかなどを1年目の学生に詳しく丁寧に話してくれました。1年目の学生は、今年1年間の活動の流れをイメージすることができたと思います。

・スポーツボランティアの特徴と魅力

信太先生による講義は、「スポーツとは何か」という問いから始まりました。普段何気なく使っているスポーツという言葉ですが、スポーツを定義するうえで、何が重要な要素なのかを改めて考えました。これからは、信太先生の話の中にあっただ「ルールによる制限」「非日常性」「戦略」などのキーとなる要素を踏まえて、一般スポーツ・障がい者スポーツの魅力を深く理解していければと思います。

さらに、「支えるスポーツ」では、どのようなことができるのか、求められていることやその可能性を通して、スポーツボランティアの特徴や魅力について教えていただきました。

・障がい者スポーツとは

市川さんからは、東京都障害者スポーツ大会の事例を通して、障がい者スポーツの競技種目やボランティアの関わり方について教えていただきました。障がい者スポーツを知らない学生が多

かったのですが、市川さんの話から障がい者スポーツの種類や特性、その魅力を知ることができたことでしょう。これからボランティアとして参加し、競技を支えることを通して、その魅力をさらに深く感じていってほしいと思います。

後半は、視覚障がいのある人の疑似体験をしました。ペアの片方がアイマスクを着け、その人をもう一人が前へ誘導しながら歩きます。周囲が見えず、なかなか前へ進めない人に対し、どのように支え、誘導すれば安心感を与えられるのか、試行錯誤している様子が印象的でした。

・日野市みんなとっしょの運動会

宮崎さんには、スポーツボランティアプログラムの活動の1つでもある「日野市みんなとっしょの運動会」について、その活動内容やボランティアをする際の視点を中心にお話いただきました。具体的な活動の流れを事前に知ること、学生が心に余裕をもち、安心して活動に臨めればと思います。さらに、日野市に住んでいる視覚障がいのある方のドキュメンタリー動画を見せていただきました。その方は、子育てをする、料理をつくるといった日常のことをごく自然に行います。宮崎さんが介助を行う際には、「その人自身ができることを介助によって妨げることがないようにする」といったことを意識されているそうです。

・目標の設定と宣言

講師の方々のお話を聞いた後、事前学習のまとめとして、これからの活動にあたって個人の目標を設定し、発表しました。

- 以下が、学生の個人目標の一部です。
- ・「積極的にコミュニケーションをとることで、年代・性別に関係なく、沢山の人が交流することができる機会をつくる。」
 - ・「ただ楽しむだけでなく、様々な視点で見つめて発見したり、考えたりして、受信・発信をする。」
 - ・「出会った人と“その人自身”として向き合い、良いなと思ったところを吸収し、行動に移し、発信する。」
 - ・「偏見をもたずに様々な人と自然な態度で関わっていく。」
 - ・「積極的に人と関わり、自分ができる社会貢献とは、何かを考える！」



講師の信太奈美先生



東京都障害者スポーツ協会の市川さん



日野市社会福祉協議会の宮崎さん



視覚障がいの疑似体験

視覚障がいの疑似体験では、「歩く」以外にも「キャッチボール」を行いました。学生たちは、言葉で周囲の状況や次の行動を伝えており、特に、「行動する前に」「詳しく」「分かりやすく」といったことを意識していました。